

# 群馬県観光振興計画(原案)

2021~2023

# ごあいさつ



++++  
++++  
++++  
++++

++++  
++++  
++++  
++++  
++++  
++++  
++++

令和3年3月

群馬県知事 山本 一太

# 目次

はじめに	本計画について	3
第1章	本県観光の現状及び課題	5
第2章	課題解決のための対策と方向性	13
第3章	基本方針	14
第4章	基本計画	15
資料編		31

# はじめに 本計画について

## 1 策定の趣旨・目的

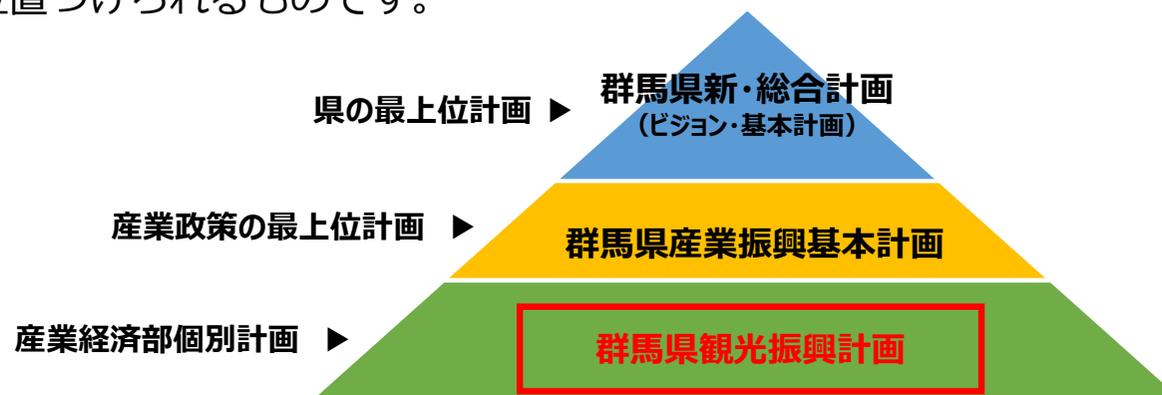
群馬よいとこ観光振興条例第17条に基づき、本県の観光振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために策定するものです。

## 2 計画期間

令和3年4月から令和6年3月までの3カ年計画とします。

## 3 計画の位置づけ

本計画は、県産業経済部の個別計画に位置づけられており、県の産業政策の計画である産業振興基本計画及び総合計画（ビジョン・基本計画）の下位に位置づけられるものです。



### 第1章 本県観光の現状及び課題

本県の強み・弱みの把握や、新型コロナウイルスの影響を踏まえた本県観光を取り巻く現状の把握及び課題の抽出を行います。

### 第2章 課題解決のための対策と方向性

課題を解決するために取るべき対策と、対策を実行するにあたっての方向性を示します。

### 第3章 基本方針

対策と方向性を踏まえ、本計画の3つの基本方針を定めます。

### 第4章 基本計画

本県観光の更なる活性化のための具体的な12の基本計画を定めます。  
また、計画の進捗を測る基本目標（KPI）7項目を設定します。

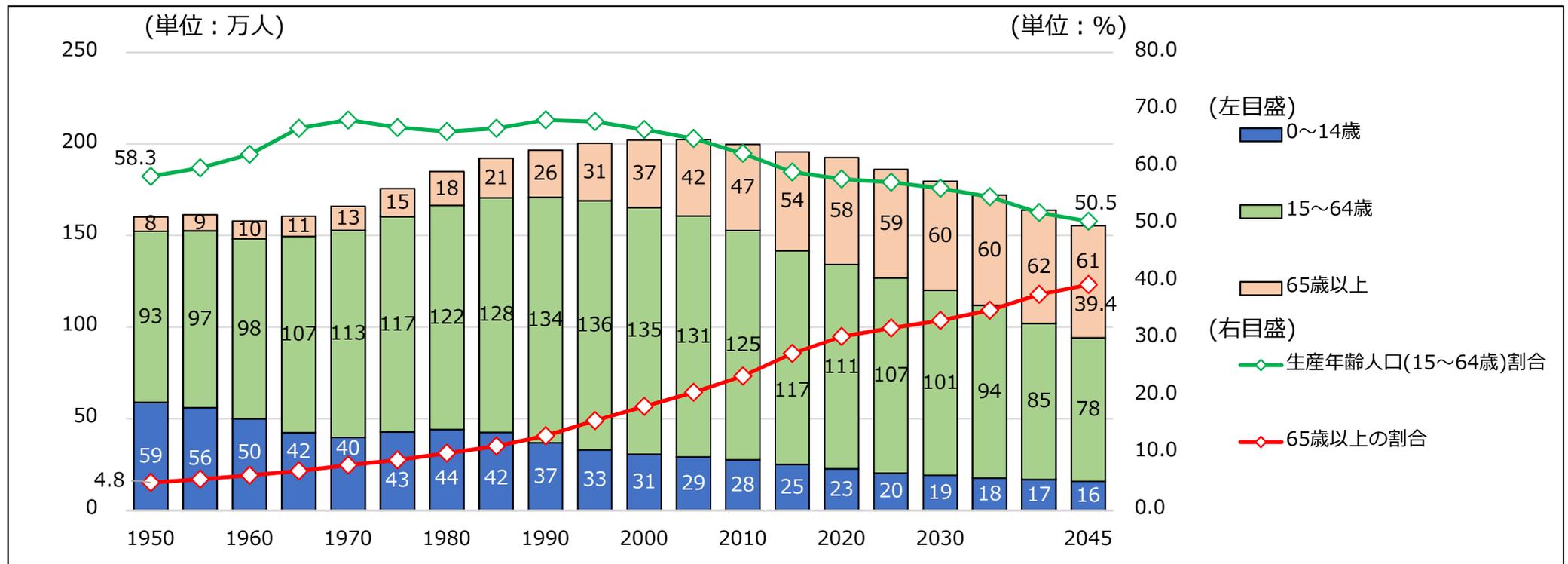
# 第1章 本県観光の現状及び課題

## 現状1 本県の強み・弱みとその変化の兆し

我が国の人口は減少局面に入っており、少子高齢化・生産年齢人口の減少も進んでいます。

本県も同様に人口減少が進んでおり、経済規模の縮小が懸念されるほか、将来的には本県を訪れる観光客が減少することが想定され、本県の弱みと考えられます。

■本県の人口推計



(出典) 群馬県「年齢別人口統計調査結果」「群馬県の将来推計人口」  
 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

本県の強みとしては、首都圏から近いという位置的な利点があるということや、豊富な湧出量と上質な泉質を誇る様々な温泉、固有の自然や文化などの資源に恵まれていること等があげられます。



草津温泉 湯畑



尾瀬



世界遺産 富岡製糸場

これらの強み・弱みについて、新型コロナウイルスの感染拡大を契機に、変化の兆しが見られています。

新型コロナウイルスの感染拡大は、人々に従来の日常から「ニューノーマル（新常態）」への転換を求めるなど、大きな痛みを生み出した一方で、これまでの大都市のように「閉鎖×密」ではなく、「開放×疎」という、ゆとりある空間へのトレンドが強まることが考えられています。

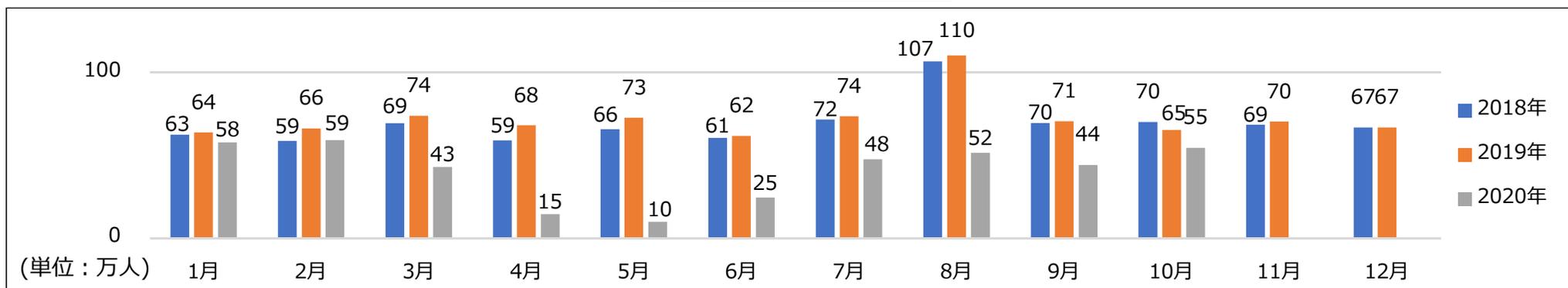
このトレンドは、本県の強みにとって追い風になると考えられるほか、弱みである人口減少も強みへと変化させる可能性があり、千載一遇のチャンスと言えます。

## 現状2 求められる観光のニューノーマル転換

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、訪日外国人旅行者は激減したほか、緊急事態宣言の発令により、営業や移動の自粛、要請が行われるなど、観光産業にも大きな影響が発生しています。

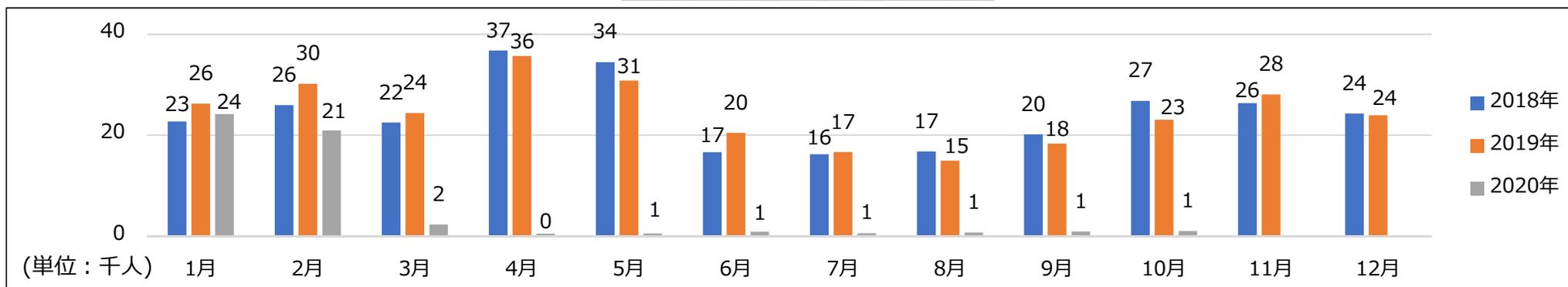
宣言の解除後であっても、感染の収束は見通せず、感染予防対策を徹底したうえでの営業や移動が求められるなど、観光においてもニューノーマルへの転換が求められています。

■本県の宿泊者数の状況



(出典) 観光庁「宿泊旅行統計」(※2020年は速報値に基づく)

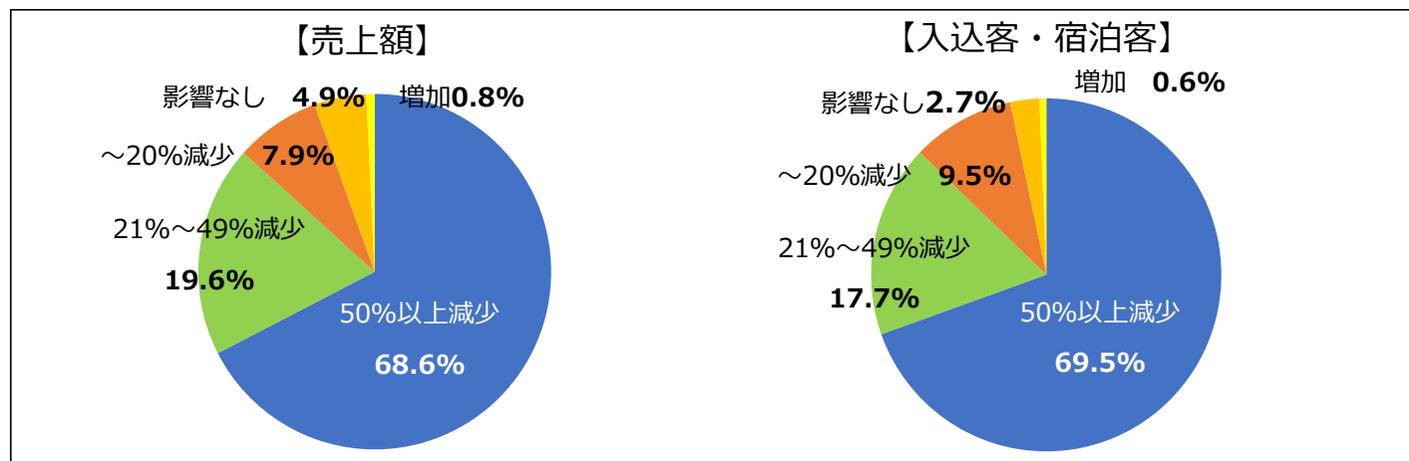
■本県の外国人宿泊者数の状況



(出典) 観光庁「宿泊旅行統計」(※2020年は速報値に基づく)

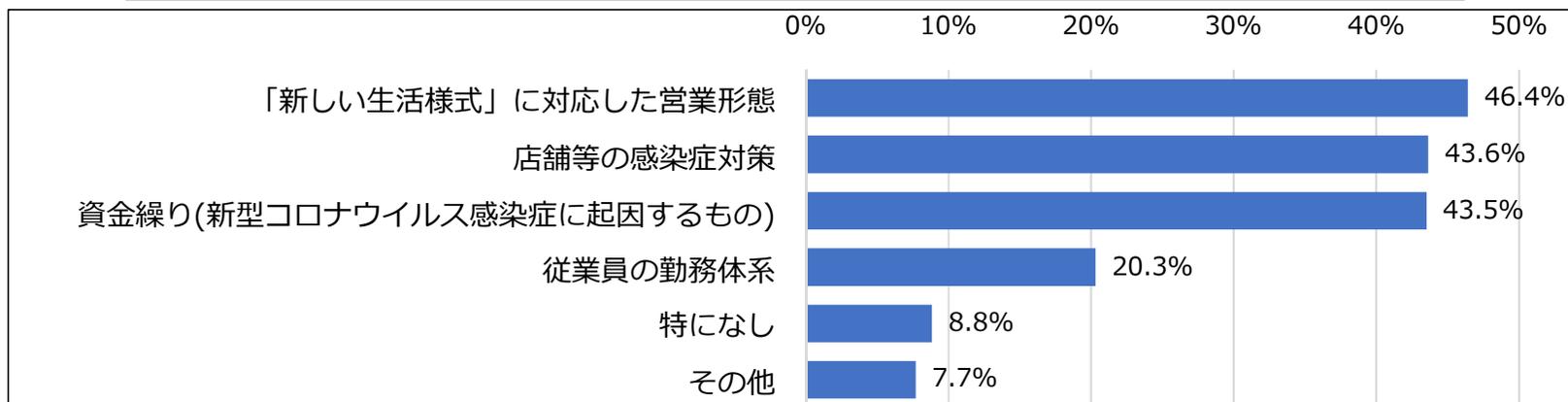
本県観光関連事業者への影響を見ると、売上額及び入込客・宿泊客が対前年比50%以上減少している事業者が約7割を占めています。また、事業者が抱える営業面の課題・問題点では、「新しい生活様式」に対応した営業形態」と回答した割合が最も高くなっており、新型コロナウイルスの影響が大きくなっていることが分かります。

■本県観光関連事業者への影響



(出典) 群馬県「観光関連事業者アンケート」(令和2年度)

■本県観光関連事業者が考える営業面の課題・問題点(新型コロナウイルス感染症関係)



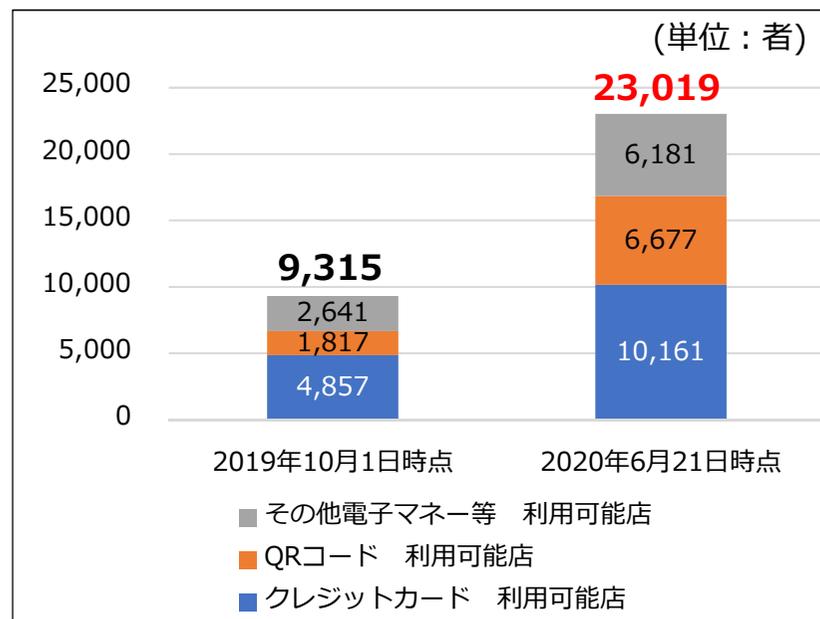
(出典) 群馬県「観光関連事業者アンケート」(令和2年度)

### 現状3 観光分野におけるデジタル化

近年の社会状況を見ると、Wi-Fi環境の整備やキャッシュレス決済の普及をはじめ、IoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）、ビッグデータといったデジタル技術の活用や、新たなデジタル基盤である第5世代移動通信システム（5G）の運用開始等、デジタル化が進んできています。

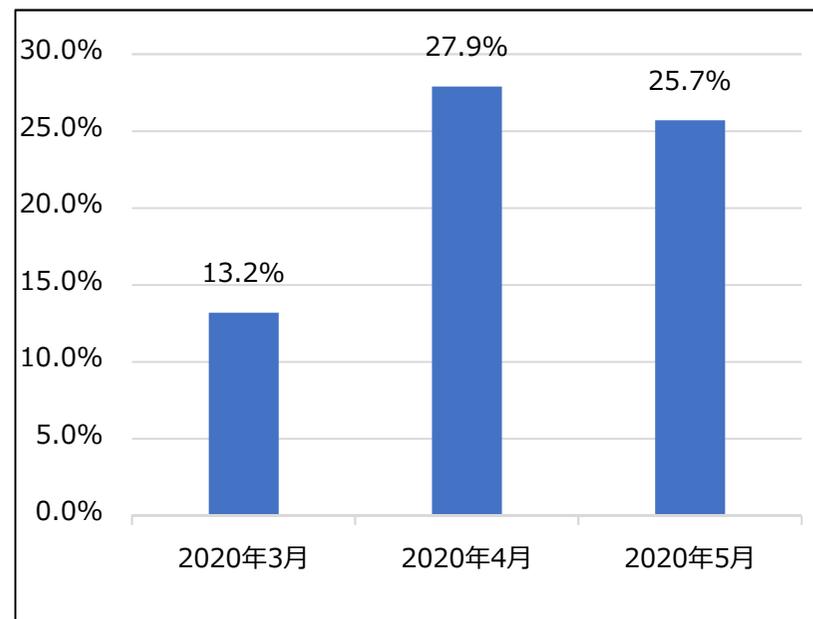
加えて、新型コロナウイルスを契機に、テレワークやネットショッピングなど、リモートでの取組も拡大しています。

■本県のキャッシュレス決済  
対応事業者の推移（ポイント事業期間中）



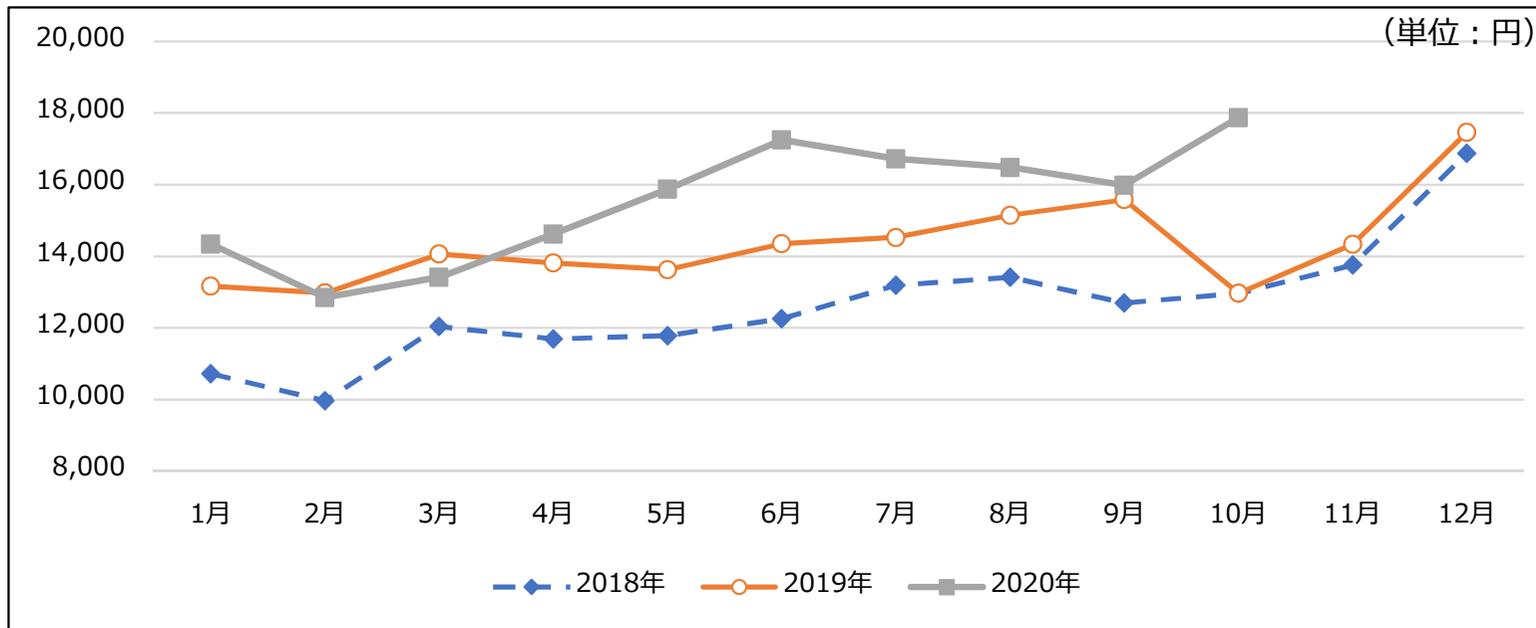
(出典) (一社)キャッシュレス推進協議会  
「ポイント還元事業加盟店数の推移」

■テレワーク実施率の推移（全国）



(出典) パーソル総合研究所  
「第三回・新型コロナウイルス対策による  
テレワークへの影響に関する緊急調査」

■ ネットショッピングにおける支出額の推移（全国）



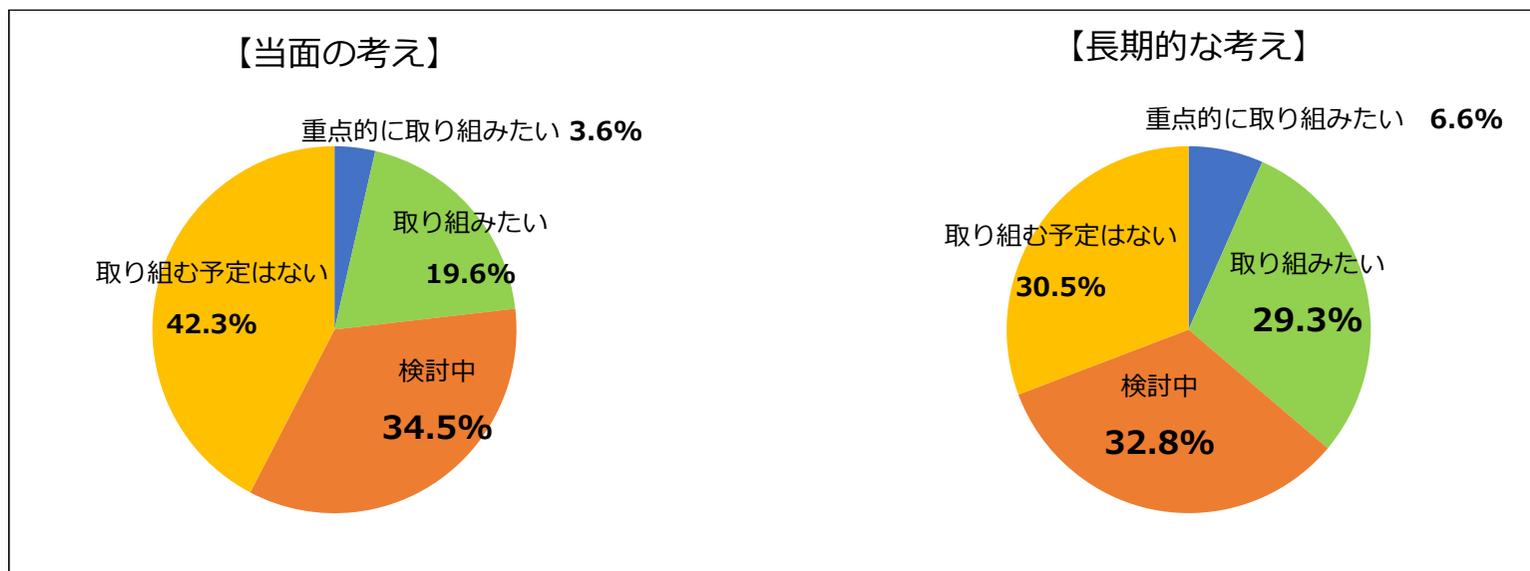
（出典）総務省「家計消費状況調査」

社会的な背景も踏まえ、観光分野においても新型コロナウイルスの影響で非対面・非接触が求められる状況下では、デジタル活用により観光産業や誘客のあり方に変革をもたらすデジタル・トランスフォーメーション（DX）への積極的な取組が求められています。

## 現状4 ウィズコロナ時代の「変化」

現在、インバウンド誘客については、難しい状況が続いており、今後数年間は、入国制限が「開閉」を繰り返すことが想定されます。本県観光関連事業者のインバウンド誘客への取組意欲を見ると、コロナ禍においては「取り組む予定はない」、「検討中」である事業者が約8割を占める一方で、長期的な考えでは「重点的に取り組みたい」、「取り組みたい」の割合が約6割となっています。

■県内観光関連事業者のインバウンド誘客への取組意欲



(出典) 群馬県「観光関連事業者アンケート」(令和2年度)

国内旅行については、「密」(密閉・密集・密接)を避ける傾向が強まっていることや、感染拡大状況によっては都道府県間の移動自粛要請が行われることが想定され、当面の観光客数は新型コロナウイルス感染症の流行前と比較して落ち込むことが考えられます。

## 本県観光が抱える課題

現状1～4から、本県が抱える課題は以下のとおりとなります。

### 現状1 本県の強み・弱みとその変化の兆し

- 本県に訪れているチャンスを実実に成果に結びつけるために、本県観光を取り巻く様々な状況・課題を正確に捉え、新たな視点で施策を実施する必要があります。

### 現状2 求められる観光のニューノーマル転換

- 観光のニューノーマル転換を行うための体制整備や、観光客が安心・安全に旅行できるような受入環境の整備が必要です。
- 新型コロナウイルスによる観光関連事業者・観光客への影響を的確に捉え、施策へ反映させるために、データマーケティングによる観光地づくりや情報発信が必要です。

### 現状3 観光分野におけるデジタル化

- 新型コロナウイルスの拡大という背景も踏まえ、最先端のICT技術を活用した施策を実施する等、デジタル化を強力に進め、新たな価値を生み出す必要があります。

### 現状4 ウィズコロナ時代の「変化」

- 観光客の減少や、他国・他都道府県への移動制限等、ウィズコロナ時代において変化する社会状況へ臨機応変に対応することが必要です。

## 第2章 課題解決のための対策と方向性

### ニューノーマル下における観光先進県へ

#### 課題解決 のための対策

ウィズコロナ時代の  
ニーズに即した  
施策の実施

DXの活用

#### 方向性Ⅰ

「量から質、さらに付加価値」への転換

- 「密」から「疎」
- 長期滞在化・高付加価値化
- ワークেশョン ● マイクロツーリズム
- 受入環境整備 ● 情報発信

- Wi-Fi整備 ● 位置情報活用
- ビッグデータ活用
- 先端技術(5G、AI、IoT等)活用
- データ一元化

#### 方向性Ⅱ

複数ターゲット層の設定・切替

複数のターゲット層の設定



状況に応じたターゲット切替

【イメージ(一例)】



基本方針

基本計画